

公立保育園の維持管理費について

○公立保育園幼稚園の園児数の割合 令和3年度

		園児数
1	全保育園認定こども園・幼稚園 園児数	7 1 3 人
2	1 の内 公立園児の数	3 8 人
3	1 の内 2 の割合	5.33%
4	1 の内公立幼稚園 (15) + 保育園児 (38) の数	5 3 人
5	1 の内 4 の割合	7.43%

公立保育園での園児数は、全体の 5.33%

公立保育園・幼稚園の園児数は全体の 7.43% (幼稚園だけだと 2.1%)

○令和3年度決算における 公立保育園の経費

令和3年度の公立保育園の入園数 (表1)

(単位 人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳	5 歳	計
野向保育園	3	2	3	3	4	2	17
平泉寺保育園	3	1	4	1	8	4	21
計							38

令和3年度決算 公立保育園運営に係る経費

(表2)

(単位 千円)

歳出	計
人件費 + 施設管理費	1 0 0, 1 4 6 A

※ 野向保育園 (保育士正職員 5 名 + 調理師 (会計年度職員 1 名)

平泉寺保育園 (保育士正職員 4 名 + 調理師 1 名 + 保育士 (会計年度職員) 1 名

2 園で栄養士・事務職員 約 1 名

保育の現状と今後の見通しについて

先般、増田委員長に野向・平泉寺両園を訪問していただき保育の現状について分析して頂いた。

その結果、今現在の園児数ならばギリギリ集団保育が成り立っている。いい意味で平和に過ごしながら、お互いの個性を理解しケンカも少ない。理想を言えば、あと2倍の園児数が入れば、適度なもめ事やケンカの中でお互い考え問題解決する力もつけていける。との意見を頂いた。

しかしながら、今の園児数が保たれないと集団保育が成り立たなくなってくるとの意見も頂いた。両園の園長からは来年度は、3歳以上児が10名に満たなくなる。そうなると例えばドッチボールなどルールのある競争を伴う遊びは成立しない。また運動会などの開催も難しくなるなどの懸念事項を挙げている。

厚生労働省が定める保育所保育指針には、「子ども相互の関係づくりや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること」とある。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には「満三歳以上の園児については、同一学年の園児で編成される学級による集団活動の中で遊びを中心とする園児の主体的な活動を通して発達を促す経験が得られるよう工夫すること」とある。

以上のことより、3歳児～5歳児合わせて10名に満たない規模では、集団活動において多様な経験をすることや効果あるものに工夫することに限界があると考えられる。

前回の委員会でも示したように、市における出生数は減少が続き、令和3年度は107名の出生数となった。令和4年度以降さらに減少していくことが予想される。

野向・平泉寺地区においてもここ5年間は平均3名の出生数となっているほか、出生がない年もある。

令和4年度当初の園児数は平泉寺保育園17名、野向保育園16名であり定員30名に対し55パーセントの充足率である。今後も年々園児数が減少していき、令和7年には、両園とも園児数が10名となる見込みであり、園児数が増加に転ずるには極めて難しい状況にある。